

2015年7月1日発行

NPO法人 RGS 協会発行 編集人 堀内孝之 〒146-0094 東京都大田区東矢口 2-18-17 ●TEL 03-3757-3389 ●FAX 03-5482-8827

シャンソンとの出会い

宮地恵理

福岡県で生まれて名古屋で幼少期を過ごし、父の転勤を機に高校から上京しました。

宝塚歌劇出身の母の影響を受け、幼い頃よりミュージカルに興味を持ち、小学校では合唱部に入部、高校からクラシックバレエと声楽を本格的に習い始め、ミュージカル女優を目指し始めた矢先、交通事故に遭い、高校時代をギブスで過ごしました。

「ライトバンに、ぶつかっただ」と同級生に伝え、一週間後学校に行ったら「恵理ちゃん、ダンプリンカー壊したんだって?」と伝わっていたのには、今でも、お友達に会うと笑い話になっています。

交通事故をきっかけにミュージカル女優からオペラ歌手へと、シフトチェンジし、ピアノ等も習い始め武蔵野音楽大学で声楽を学びました。

卒業後は、やはり夢が諦めきれず、船越英一郎さん主催「ドラママティックミュージカルシアター・マガジン」に入団し、舞台「風のレジェンド」、映画「私のグランパ」などに出演の傍ら、舞台「One Week」で、歌唱指導を、舞台「ナチュラル」では演出助手も経験させていただきました。

マガジン入団と同時に、宝塚の劇中で使用されていて馴染み深いシャンソン・カンツォーネの世界を中島眞佐雄先生に教えていただき、第16回太陽カンツォーネコンソロソで河合秀朋賞を受賞しました。

▲宮地恵理さん

現在も継続して中島眞佐雄先生に教えていただいています。

また数年前に「眞帆志ぶきジュネーブコンサー

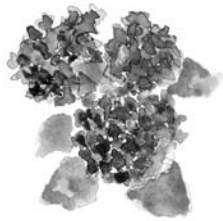
ト」にコーラスで参加させていただきました。まさに世界の眞帆志ぶきさん! だと感じたツアーでした。

コンサートツアーの折には、オーブリー・ヘップバーンさんのお墓参り、フランスの古城巡り、オイスタータワーで白ワインを飲んだり楽しい思い出がいっぱいです。

このツアーをきっかけに、現在も眞帆さんとお付き合ひさせていただいています。

出身地の名古屋では『安らぎを貴女の胸に』と題したコンサートを、中部電力ホールで開催いたしました。このコンサートには交通遺児の子供達を招待し、楽しい時間を過ごしてもらえたかなと、思っています。

現在は赤坂の「ニューカブト」を中心に、六本木や新宿などのライブハウスで歌い、皆様に色々と教えていただきながら、シャンソンをこれからも歌い続けていきたいと思っています。



この歌に出会って

西能 幸浩



推薦文を書く事を急遽頼まれ、You Tubeで初めてシャンソンを聞きました。私の同年代で、シャンソンを聞いている人はほとんどおらず、大半が「シャンソンって何？」と思うのではないかと思います。そんな中でシャンソンを聞ききっかけを持たれたことは非常に良い機会でした。

は私にはまったく理解ができませんでしたが、ただ単純に、上品な大人のための愛の歌という印象を受けました。

「シャンパン」からは情熱的な何かと同時に、もの悲しげな雰囲気を感じました。まさに大人の愛の歌という今までにない世界に一步足を踏み入れたような感覚に陥りました。

今回はインターネットでの視聴でしたが、機会があれば是非のシャンソンに触れてみたいと思いました。

今回、聞かせていただいたのは岩崎桃子さんの「シャンパン」という曲です。正直に言って、歌詞やメロディが持つ意味など

聴でしたが、機会があれば是非のシャンソンに触れてみたいと思いました。



▲西能幸浩氏



シャンパン

作詞／すずめ
作曲／塚本周成

乗り越した駅に降りたついでに
街へ出て懐かしい店によってみたの
昼下がり人もへって 静かなお店
聞こえるアコルディオンの音色もやさしいわ
この店で冷えたシャンパンを飲みながら
いつもあなたは待ってくれたわね

何となく足が向いただけなの
ひとりでも今では平気よ 楽しいわ

壁紙もテーブルクロスも昔と同じ
陽のさす窓辺の椅子には座らなかつたけど
あの席でカモのコンフィーとシャンパンを
いつもあなたは召し上がったわね

読みかけの広げた文庫本に
シャンパングラスのしずくが落ちたわ
思い出が濡れた文字の間に浮かぶ
あの頃二人は何をしゃべっていたかしら
目が合うと昼間酔うのは罪かなと
いつもあなたは微笑むのよね

愛し合えば苦しむだけと知っていたけれど
出会えた幸せを大切にしたら良かった
だからあなたと別れた今も思い出すたびに
幸せな気持ちになるの

●曲は YouTube もしくは「日本生まれのシャンソン」(<http://rgschanson.com>) で聴いてください。

リアルに感じる歌手 フェレル



日本ではシャンソンと言えど作詞が綺麗に描かれ、多くのおばさま方に愛され歌われているが、昨日莉玲さんのシャンパーニュで歌った「パルレ・モワ・ダムール」は若い人の歌う綺麗なシャ

ンソンだった。
 ダミア、ピアフの歌うシャンソンより、底辺に生きる人々の生活を感じるのはフェレルのように思う。上手とは思わないが、捲し立てるような歌い方は路地の嫌な臭いの安酒場の感じがする。

本名をマルグリット・ブルクと言ひ、一八九一年七月十四日、パリで生まれている。父親がブルターニュ出身、ケルト系で貧しく、五歳の頃より街をうろつき施しを受けていたという。

街頭でのモノ売りで鍛えたためか、物事に動じない度胸の良さからか、当時人気の歌手オテロの楽屋へ押しかけ、彼女に気に入られたのか十四歳でデビューする。歌の教師オーラルの適切な指導を受け、活動も下町のカフェからミュージックホール、高級クラブへと格上げされてゆく。歌の師オーラルと結婚するのだが、子供は生後間もなく死に、夫はライバルのダミアのものとへ去って行った。その後も気性の激しさからか男に捨てられている。

男とのいざこざからか一九一一年ロシア、ルーマニア、トルコなどを放浪、イスタンブールで薬物依存のため国外追放を受け、十二年を経てパリにもどってくる。肥満して清楚さを欠いた醜さも、彼女の歌にふさわしいのか復活したが、一九五一年二月三日、ツケを取りにきた人に看取られ死んでいる。(T・H記)

シャンソン名訳・迷訳

「セーヌの蛇行 (La boucle de la Seine)」という有名な成句がある。これは恋するセーヌのパリへの熱い想いを表したものだと言うから、都市計画課のお役人が流れの向きを変えようとしても、セーヌに無視されてしまうのだろう。

LA SEINE

La Seine est aventureuse
 De Châtillon à Méry,
 Et son humeur voyageuse
 Flâne à travers les pays
 Elle se fait langoureuse,
 De Juvisy à Choisy
 Pour aborder, l'âme heureuse,
 L'amoureux qu'elle a choisi !

Elle roucoule, coule, coule
 Dès qu'elle entre dans Paris !
 Elle s'enroule, roule, roule
 Autour de ses quais fleuris !
 Elle chante, chante, chante,
 Chant' le jour et la nuit,
 Car la Seine est une amante
 Et son amant c'est Paris !

Mais la Seine est paresseuse,
 En passant près de Neuilly,
 Ah ! comme elle est malheureuse
 De quitter son bel ami !
 Dans une étreinte amoureuse
 Elle enlace encore Paris,
 Pour lui laisser, généreuse,
 Une boucle ... à Saint-Denis !

Elle recoule, coule, coule
 Sa complainte dans la nuit...
 Elle roule, roule, roule
 Vers la mer où tout finit...
 Elle chante, chante, chante,
 Chant' l'amour de Paris !

Car la Seine est une amante
 Et son amant c'est Paris
 Car la Seine est une amante
 Et Paris dort dans son lit !

ラ・セーヌ 星野亮直訳

セーヌは お好き、アバンチュールが、
 シャティヨンからメリーまで
 旅行気分であらふらと
 村々の中、突き抜ける、
 ジュヴィジーからはショワジーへ
 思いこがれて 悴(やつ)れましょう
 幸せ気分で、意中の彼に
 近づくために 悴れましょう

パリに入るや、睦言語り、
 流れ、流れて、流れゆく
 セーヌは回る、巻きつきながら、
 花咲く岸辺を流れゆく
 歌う、歌う、セーヌは歌う
 歌うは昼も、歌うは夜も
 何故って、セーヌは恋する女
 彼女の彼氏はパリだから

でも、セーヌの流れは遅くなる
 ヌーイの傍を通るとき、
 ああ、何たる不幸せ、
 愛する人と別れるは。
 愛する固き抱擁で
 それでもパリを抱きしめる。
 セーヌは残す、気前よく
 湾曲、迂曲をサンドウニ

セーヌはささやき流れゆく
 夜ともなれば エレジー(哀歌)を
 回り、回り、回りつつ
 すべてが終わる 海に向け...
 セーヌは歌う、歌、歌を
 歌うは パリへの愛の歌

何故って、セーヌは恋する女
 彼女の彼氏は パリだから
 何故って、セーヌは恋する女
 パリは眠る セーヌの床に。

小田原 ビストロ・ローヤル



▲小田原ビストロ・ローヤル



▲シェフ古矢さんご夫妻。

箱根の東小田原。この街のランドマークである小田原城のお堀端でフランス料理店を始めて三十余年、古矢夫妻が営む「ビストロ・ローヤル」を紹介します。

銀座マキシム・ド・パリで修業したシェフと日本ソムリエ協会正会員で公認ソムリエ資格を持つマダムが、マダムが石井好子さんファンで大のシャンソン愛好家であるからか、お店には何時もシャンソンが流れています。

10年程前に堀内環さんを招きコンサートを開いたのをきっかけに、

年に数回シャンソンコンサートを
行っています。

マダムと初めてお会いしたのは二〇〇七年、銀座十字屋ホールでの石井好子コンサートの時でした。うちのお店でコンサートをしませんか、と誘われ何度か私もコンサートを行っております。

小田原は海山の幸に恵まれています。シェフの料理とマダムの選ぶワインで流れてくるシャンソンに耳を傾けるそんな優雅な一時をお過ごしになるのはいかがですか。

七月二十二日は小田原市民会館で「小田原巴里祭」が開催されます。

す。私も出演しております。その時にお寄り下されば幸いです。(倉井克幸記)



ビストロ・ローヤル
 神奈川県小田原市栄町 1-10-10
 TEL.0465-24-2377
 FAX.0465-23-4928
 11:00 ~ 14:30 (ラストオーダー)
 17:00 ~ 20:30 (ラストオーダー)
 * 土日 21:00 ラストオーダー
 月曜日定休
 (1月は火曜日が休みとなります)

CHANSON RGSSシャンソン研究会発行

発売中 日本生まれのシャンソン I
 CD・カラオケ付き 定価 2000円 送料300円



●「日本生まれのシャンソン」ホームページ <http://rgschanson.com>